

報告書＜概要版＞

総務省

「我が国における 青少年のインターネット利用に係る フィルタリングに関する調査」

2021年4月

目次

調査趣旨・調査概要	3
本調査研究から得られる政策的含意	4
アンケート調査分析	6
実験的調査	25
保護者インタビュー調査	29
付録	34

調査趣旨・調査概要

本調査研究の目的

青少年におけるスマートフォンの普及は大きく進展しており、SNSを利用して犯罪の被害にあう児童・生徒の数も高止まりするなど、スマートフォンの普及に伴うトラブルも増加している。

そのような中、総務省では、青少年インターネット環境整備法に基づき青少年におけるフィルタリングの利用の普及促進を行っている。普及促進施策の一環として、総務省の「青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に関するタスクフォース」において、青少年への携帯電話の販売又は契約変更時における、フィルタリングサービスへの加入及び店頭等で有効化（設定）を実施した割合の公表を求める等、携帯電話事業者の更なる取組を促した。

その結果、大手4社（NTTドコモ・KDDI・SoftBank・楽天モバイル）の加入率は75%（2020年9月）まで向上（2019年9月時点：NTTドコモ・KDDI・SoftBankの加入率が57%）した。しかしながら、内閣府の「青少年のインターネット利用環境実態調査」によれば、フィルタリングの利用率は4割程度（2019年度37.4%）と低い。

こうした状況の下、フィルタリング利用の普及とともに継続的な利用を実現することは、平成30年2月に施行された改正青少年インターネット環境整備法の着実な履行等の観点からも重要である。

以上を踏まえ、本調査では、我が国におけるフィルタリングに関する実態について調査・分析を行い、有識者ヒアリングを踏まえて、今後の効果的なフィルタリングの利用促進に係る政策の論拠を得る。

本調査研究で明らかにすること

- A) フィルタリングサービス・その他ペアレンタルコントロール機能・家庭でのルールの利用・実施状況
- B) インターネットの問題に関する知識・危険性認知や、フィルタリングサービスの知識・効果認知状況
- C) インターネットの問題について見聞きした経験・トラブルに遭った経験の状況
- D) フィルタリングサービス利用行動に影響を与えている要素
- E) フィルタリングサービスの利用を促進するための効果的な方策

調査研究手法

- 1. 文献調査
- 2. 6,500名の青少年保護者を対象としたアンケート調査分析
- 3. 1,002名の青少年保護者を対象とした実験的調査
- 4. 21名の青少年保護者へのインタビュー調査
- 5. 有識者会議

本調査研究から得られる政策的含意

1. フィルタリングサービスの利用率は低く、継続的な利用促進のための取組が必要。

- ・ スマートフォンを利用している青少年において、フィルタリングサービスの利用率は38.1%にとどまっていた（p8・図表3）。
 - ・ フィルタリングサービスを利用していない人は、家庭内ルール作りやペアレンタルコントロール機能利用もしていない（p13・図表14、p14・図表16）。
- ⇒「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正後も、フィルタリングサービスの利用は改善しているものの、定着しているとはいえない。継続的な利用促進施策が必要となる。

2. インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスに関する情報と各問題に対する有効性を啓発することが重要。

- ・ 「ネットの問題に関する知識」を除き、「フィルタリングサービスの知識」、「ネットの問題が子供にもたらす危険性認知」、「フィルタリングサービスの有効性認知」は、これらが高いほどフィルタリングサービスを利用しているし、解除していない傾向（p20・図表24、p21・図表25）。
 - ・ 実験的調査でも、これらの情報を提供することで48.8%がフィルタリングサービス利用意向を示した（p26・図表28）。
- ⇒ ネットの危険性と、フィルタリングサービスの情報や有効性を啓発することで、利用が促進されと考えられる。

3. フィルタリングサービスのカスタマイズ設定について啓発すると同時に、カスタマイズしやすい設計とする取組が必要。

- ・ フィルタリングサービスを解除する理由として、「子供にとって不便と感じたため」（31.3%）、「使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」（29.2%）が多かった（p11・図表12）。また、カスタマイズ設定を知っていると解除しない傾向が見られた（p22・図表26）。
 - ・ 保護者インタビュー調査においても、解除理由として制限が強く、不便であることが指摘される一方で、カスタマイズ設定を認知していない発言が多かった（p30・ストーリー8）。
 - ・ 利用率の最も高い「あんしんフィルター」では、カスタマイズ率が33.3%と低かった（p9・図表8）。
- ⇒ 店頭での説明の際にカスタマイズ設定の仕方まで啓発する、フィルタリングサービスをカスタマイズしやすい設計にするといった施策が有効と考えられる。

4. フィルタリングサービスの機能の中でも特に「アプリ利用制限」「利用時間管理・利用状況通知」の機能を啓発することが重要。

- ・ フィルタリングサービスについて、「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」ということを知っていると、利用する傾向にあり、解除しない傾向もあった（p22・図表26）。
 - ・ 保護者インタビュー調査でも、「使いすぎ（時間）を防ぎたかった」等を最大の理由としている家庭が複数見られた（p30・ストーリー6）。
- ⇒ このような「アプリ利用制限」「利用時間管理・利用状況通知」はニーズが高く、これらの機能を啓発することが利用促進につながる。

本調査研究から得られる政策的含意

5. フィルタリングサービスについて、青少年の利用実態を踏まえた設計にする取組が必要。：特に中学生以上

- 子供のスマートフォン専用利用の理由として多かったのが「部活等でメッセージアプリを利用するため」であった（p30・ストーリー1）。
- 一方、フィルタリングサービスにおいて、中学生モードでもメッセージアプリの利用制限があり、解除につながっている（p30・ストーリー8）。
- 他方、例えばメッセージアプリであれば、インストールすることでメッセージ機能だけでなく、オープンチャットや金融系サービスが紐づくこともある。このようなサービスを青少年に許可することにはリスクも考えられる。

⇒デフォルトの設定でも現実に即した継続しやすい設定にしておくことが、フィルタリングサービス継続の観点から重要といえる。

⇒サービス事業者が、機能を絞ったキッズ向けのアプリをリリースする等の対応をすることで、より安全に・便利に青少年がサービスを利用できる可能性がある。

6. 高校生におけるインターネットの危険性を啓発することが重要。

- 高校生でフィルタリングサービスを利用しない理由としては、「特に必要を感じないため」や、「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」が多かった（p12・図表13）。

⇒個人間取引の詐欺、架空請求、誘い出しなど、高校生が被害に遭うケースも少なくない。高校生でもインターネット利用に危険性があることを啓発することが必要である。

7. 特に、低年齢層の子供を持つ保護者向けには、スマートフォン購入時にフィルタリングサービスの案内をすることが重要。

- スマートフォン購入時における保護者の管理に関する説明や資料は、フィルタリングサービス利用に大きく寄与（p15・図表18、p21・図表25）。
- 他方、低年齢層の子供を持つ保護者は説明をほとんど受けていない。購入時に子供が使う予定がなかったという理由が多い（p15・図表17）。
- 親と子供の共用だとフィルタリングサービスを利用しない傾向にある（p21・図表25）うえ、解除する傾向もある（p20・図表24）。

⇒購入時に青少年がスマートフォンを利用することを想定していないような青少年保護者でも、保護者の管理に関する説明を受けられるような環境を整備することで、年齢が低い時からの適切なフィルタリングサービス利用を促進できる。

⇒共用でも手間少なくON/OFFを切り替えられることも利用を促進する。

8. 保護者には「リテラシーの向上」を、子供には「自身で危険性を判断できるようになる」教育や情報・サービス展開を行うことが重要。

- 保護者はネットリテラシー向上の必要性を感じており、「年齢や性別毎にどのように対処したらいいのか知れるとよい」「トラブル事例とその対応方法リストがあると具体的に行動しやすい」といった意見が伺えた（p30・ストーリー12、p30・ストーリー13）。
- 子供に対しては、「子供自身で危険性を判断できるようになってほしい」という意見も聞かれた（p30・ストーリー14）。

⇒保護者自身がネットの危険性や対処策を学ぶと同時に、子供も危険性を防ぐ方法を学ぶことが、青少年トラブル防止につながる。

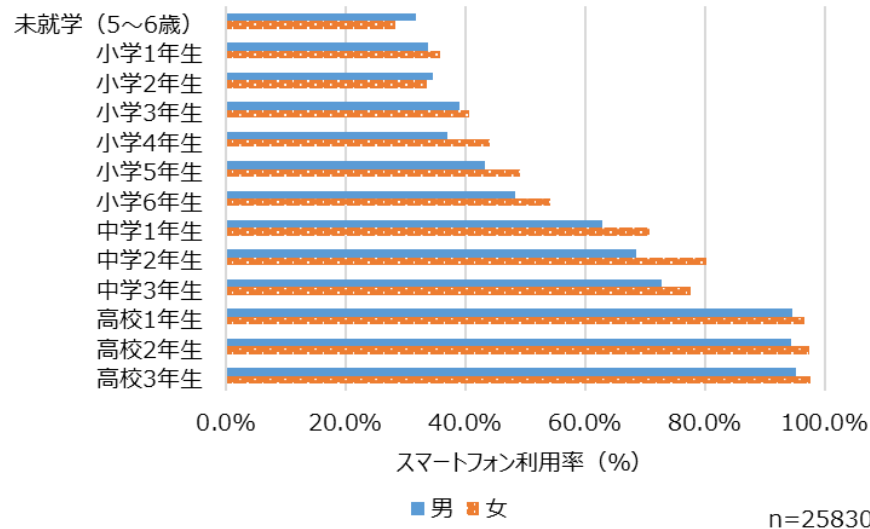
アンケート調査分析

アンケート調査方法

◆ アンケート調査の概要

- 調査時期：2021年1月28日～2月3日
- 調査対象：調査会社の保有する20歳～69歳の登録モニタ。調査はインターネットで行う。条件は、①同居している末子年齢が5歳～高校3年生、②末子がスマートフォンを利用、③末子のフィルタリングサービス利用状況を把握している、④末子のスマートフォンがインターネットに接続できる。
- サンプルサイズ：条件に合致する保護者6,500名。青少年の性別・学年によって均等割り付けを行った（図表2）。ただし、実際の分析の際は、各学年・性別におけるスマートフォン利用率（図表1）によるウェイトバック*をした。
- 調査目的：フィルタリングサービス利用状況や利用しない理由等を明らかにしたうえで、フィルタリングサービス利用行動にどのような要素が影響を与えているか検証する。

図表1 青少年のスマートフォン利用率（学年/年齢・性別別）



図表2 サンプルサイズ

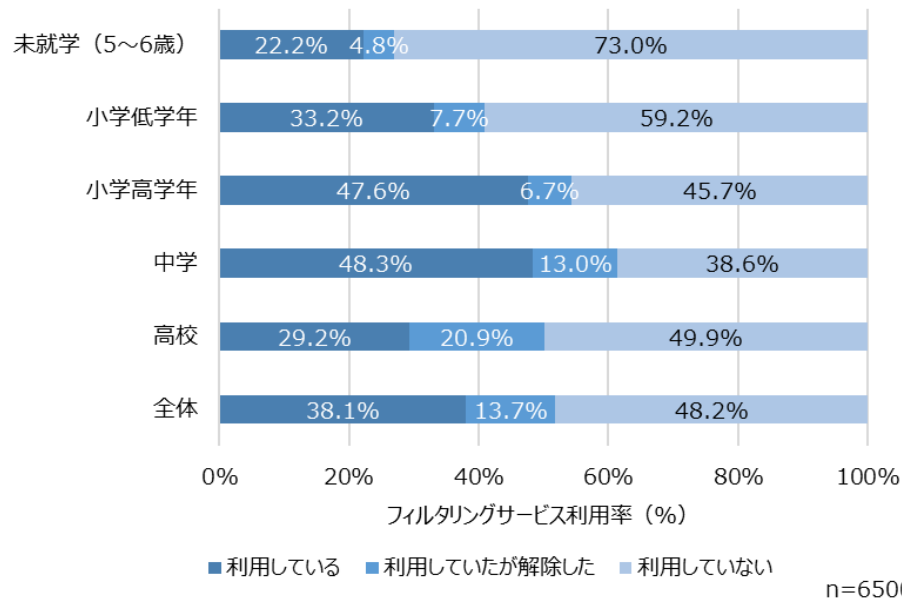
	男	女	合計
未就学 (5～6歳)	250	250	500
小学1年生	250	250	500
小学2年生	250	250	500
小学3年生	250	250	500
小学4年生	250	250	500
小学5年生	250	250	500
小学6年生	250	250	500
中学1年生	250	250	500
中学2年生	250	250	500
中学3年生	250	250	500
高校1年生	250	250	500
高校2年生	250	250	500
高校3年生	250	250	500
合計	3250	3250	6500

* 調査分析に当たっては、青少年（末子）がスマートフォンを利用している人としている。しかし、均等割り付けを行ったまま分析してしまうと、スマートフォン利用率の低い層の説明力が過剰に高くなってしまふ。このような問題に対処するため、分析において図表1のスマートフォン利用率に応じて重み付けをし、社会の傾向に近い傾向を算出するのがウェイトバックである。

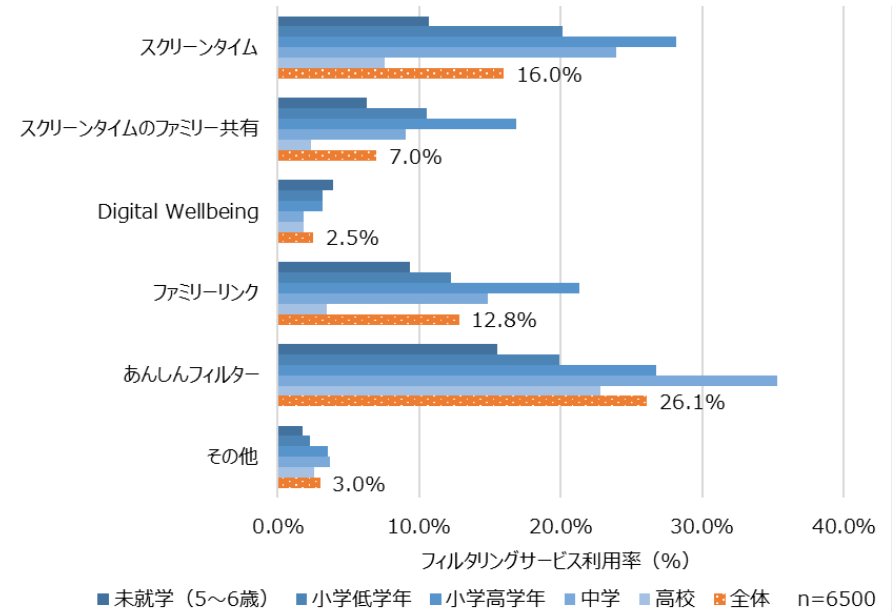
フィルタリングサービスの利用状況

◆ フィルタリングサービス利用率

- 全体では38.1%がフィルタリングサービス*を利用している。その一方で、13.7%はフィルタリングサービスを利用していたが解除しており、48.2%は一度も利用していない（図表3）。未だフィルタリングサービスが浸透しているとは言い難い。
- 未就学や高校生での利用率が低い。また、中学生以降、フィルタリングサービスを解除する割合の増加が活発になっている（図表3）。
- サービスではあんしんフィルター利用率（26.1%）が最も高く、OSで提供されている4つのフィルタリングサービス**を上回る（図表4）。



図表3 フィルタリングサービス利用率（年齢別）



図表4 各フィルタリングサービス利用率（年齢別）

※ 分母は各サービスの対象機種・通信事業者を利用している人。

* 本調査におけるフィルタリングサービスとは、以下を指す。これらは調査時に回答者にも提示している。「スクリーンタイム（iOSのフィルタリング機能）」「スクリーンタイムのファミリー共有（iOSのフィルタリング機能）」「Digital Wellbeing（Android OSのフィルタリング機能）」「ファミリーリンク（Android OSのフィルタリング機能）」「NTTドコモ・KDDI・SoftBankの提供するフィルタリングサービス『あんしんフィルター』」「その他のフィルタリングサービス（『i-フィルター』『スマモリ』等）」。

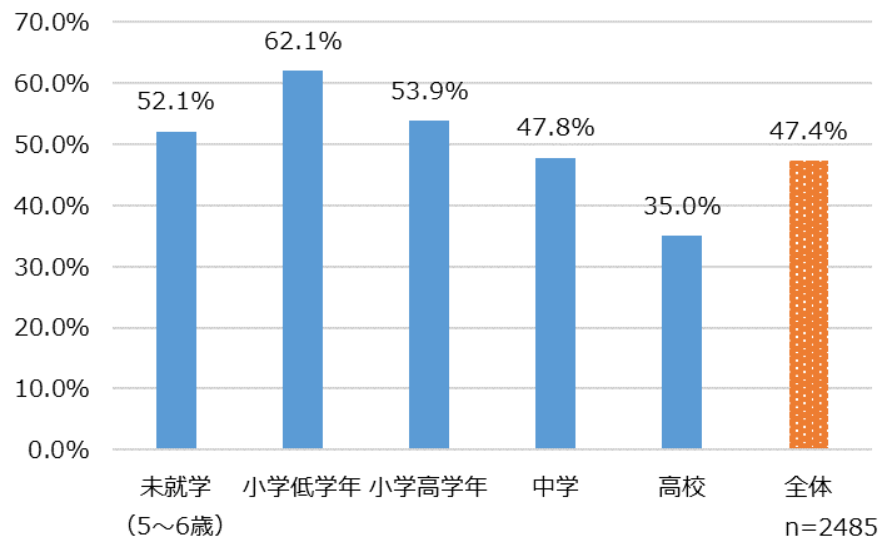
** OSで提供されているフィルタリングサービスとは、「スクリーンタイム」「スクリーンタイムのファミリー共有」「Digital Wellbeing」「ファミリーリンク」の4つである。

フィルタリングサービスの利用状況

◆ カスタマイズ設定状況

- フィルタリングサービス利用者の47.4%が何らかのカスタマイズ設定をしている。カスタマイズ設定をしている割合が最も高いのは小学低学年（62.1%）である一方で、高校生は少なく35.0%に留まる（図表7）。
- あんしんフィルターのカスタマイズ設定率は低い（33.3%）。保護者インタビュー調査でも、あんしんフィルターを解除した人の多くがカスタマイズ設定の存在を知らないままで解除していた。

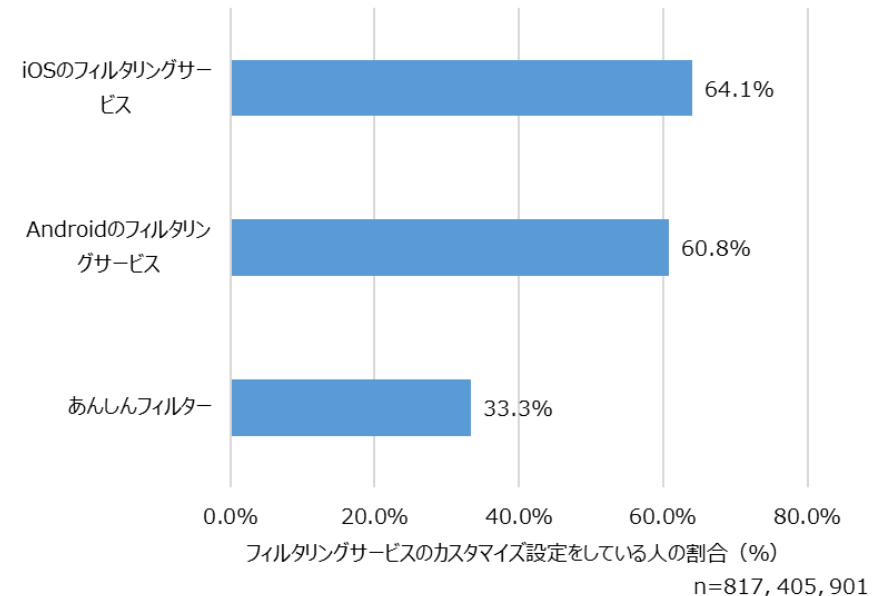
フィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしている人の割合（%）



図表7 フィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしている人の割合（年齢別）

※ nはフィルタリングサービスを利用している人。

※ 調査に当たり、「なおカスタマイズとは、フィルタリング強度の設定や個別アプリの使用許可、個別サイトの閲覧許可等を指します。」と注意書きしている。

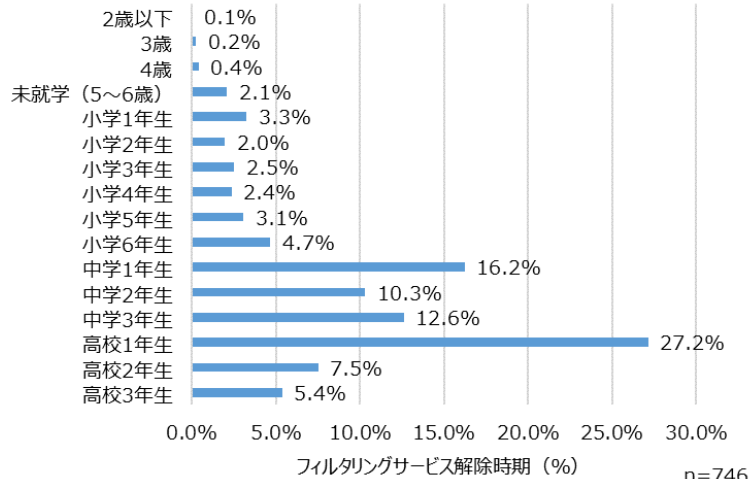


図表8 フィルタリングサービスのカスタマイズ設定をしている人の割合（フィルタリングサービス別）

※ nはそれぞれのフィルタリングサービスを利用している人。ただし、複数のフィルタリングサービスを利用している人を除く

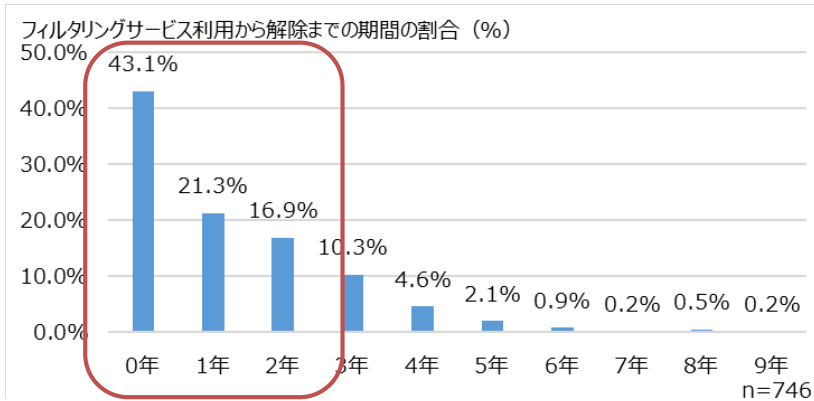
フィルタリングサービスの解除状況

◆ フィルタリングサービス解除時期・解除後のトラブル



図表9 フィルタリングサービスを解除した時期（学年/年齢別）

※ nはフィルタリングサービスを利用していたが解除した人。

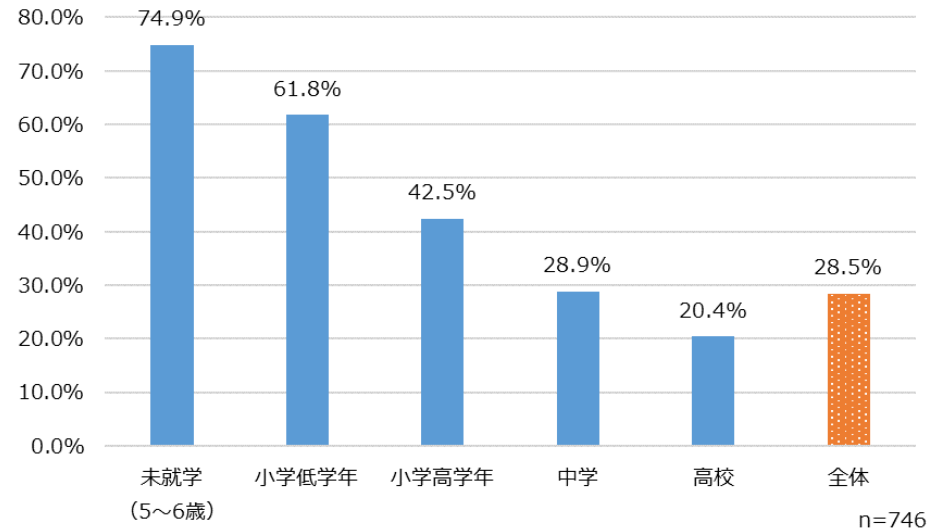


図表10 フィルタリングサービスを解除した時期（学年/年齢別）

※ nはフィルタリングサービスを利用していたが解除した人。

- フィルタリングサービスを解除する時期で最も多いのは高校1年生（27.2%）（図表9）。
- 81.3%の人が利用開始から2年以内に解除していた（図表10）。
- フィルタリングサービス解除後にトラブルに遭っている人は28.5%と少ない。特に低年齢でその傾向が強く、未就学（5～6歳）では74.9%に達する（図表11）。

フィルタリングサービス解除後にトラブルに遭った人の割合 (%)

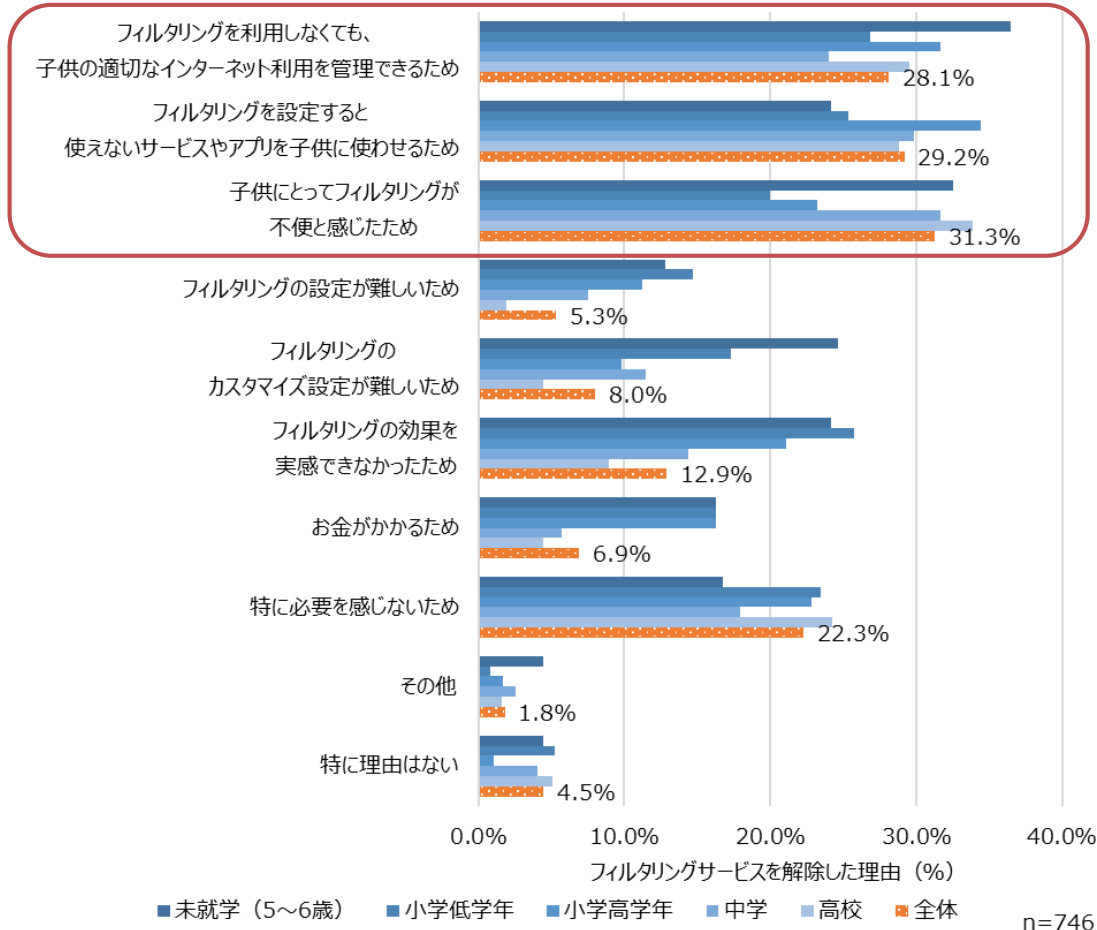


図表11 フィルタリングサービス解除後にトラブルに遭った人の割合（年齢別）

※ nはフィルタリングサービスを利用していたが解除した人。

フィルタリングサービスの解除状況

◆ フィルタリングサービスを解除した理由



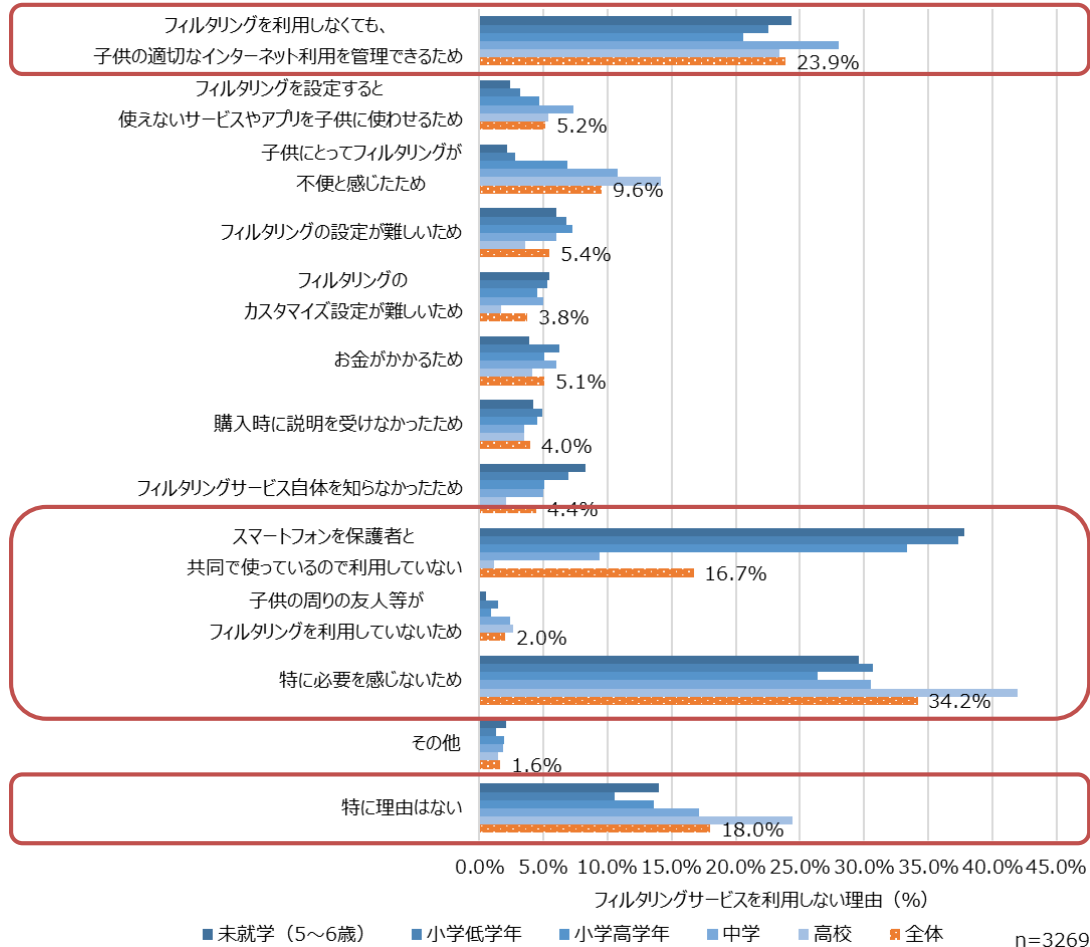
- 解除した理由では1位が「子供にとってフィルタリングが不便と感じたため」(31.3%)、2位が「フィルタリングを設定すると使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」(29.2%)。子供にとって何らかの不便があったために解除している。
- 「フィルタリングの設定が難しいため」(5.3%)、「フィルタリングのカスタマイズ設定が難しいため」(8%)は、青少年の年齢が低い人ほど多い傾向があった。慣れていないことや、スマートフォンの購入時には青少年が利用する予定ではなかったため、店頭で説明を受けていないこと等が影響を与えていると考えられる。年齢の低い青少年の子供を持つ保護者に、重点的に設定について啓発することが効果的といえる。

図表12 フィルタリングサービスを解除した理由（年齢別）

※ nはフィルタリングサービスを利用していましたが解除した人。

フィルタリングサービスの未利用状況

◆ フィルタリングサービスを利用しない理由



図表13 フィルタリングサービスを利用しない理由（年齢別）

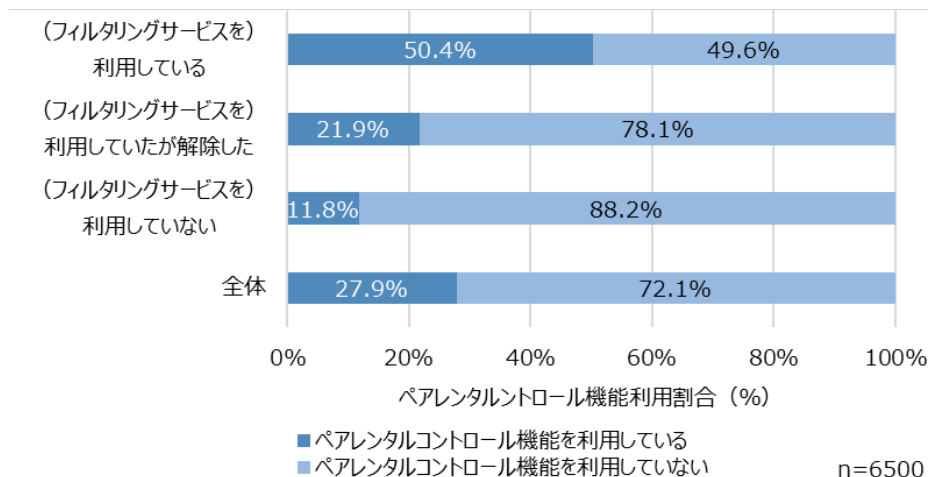
※ nはフィルタリングサービスを利用していない人。

- 利用しない理由では、最も多いのが「特に必要を感じないため」（34.2%）、3位が「特に理由はない」（18.0%）。解除している人（p12・図表12）と異なり、明確な理由なくフィルタリングサービスを利用しない人が多い。
- 2位は「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」（23.9%）とあるが、後述（p14・図表14、p15・図表16）のように、利用していない人は他のペアレンタルコントロール機能を利用していないし、家庭でのルールも定めていない傾向がある。問題意識の低い保護者が、漠然と管理できると考えているという可能性が示唆される。
- 青少年の年齢別でみると、「特に必要を感じないため」（全体34.2%、高校42.0%）と「特に理由はない」（全体18.0%、高校24.0%）は高校生が突出して多い。一方、「スマートフォンを保護者と共同で使っているので利用していない」は未就学（5～6歳）から小学（高学年）までにおいて顕著に多い。

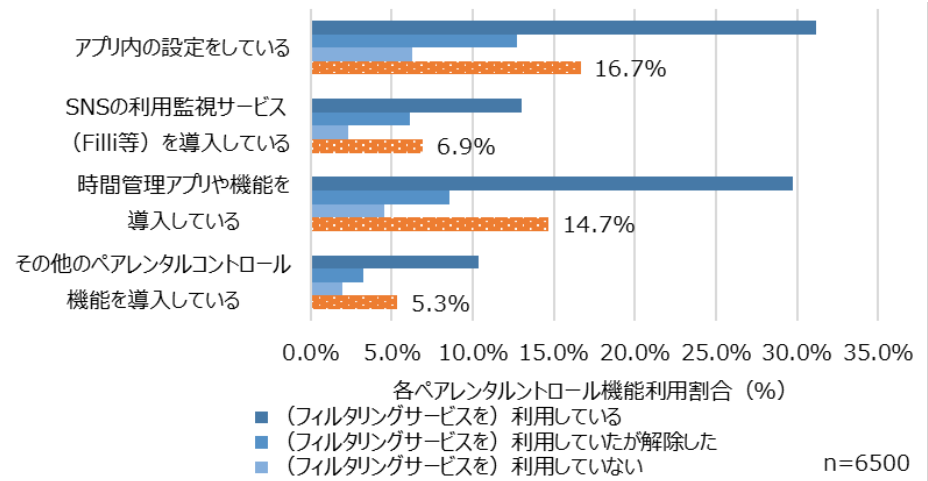
フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロール機能の利用状況

◆ ペアレンタルコントロール機能の利用状況

- ペアレンタルコントロール機能*について、保護者のうち27.9%が何らかを利用している。ペアレンタルコントロール機能を利用している人は、フィルタリングサービスを利用している人の中では50.4%、フィルタリングサービスを解除した人の中では21.9%、フィルタリングサービスを利用していない人の中では11.8%（図表14）。
- フィルタリングサービス以外に利用されているペアレンタルコントロール機能について、機能別では「アプリ内の設定」（16.7%）「時間管理アプリや機能を導入している」（14.7%）が多い（図表15）。
- 「フィルタリングサービス以外の他のペアレンタルコントロール機能を導入しているから、フィルタリングサービスを利用していない」という状況はほとんど見られない。フィルタリングサービスを利用していない人はその他のペアレンタルコントロール機能も利用していないといえる。



図表14 ペアレンタルコントロールに関する機能の利用状況（フィルタリングサービス利用状況別）

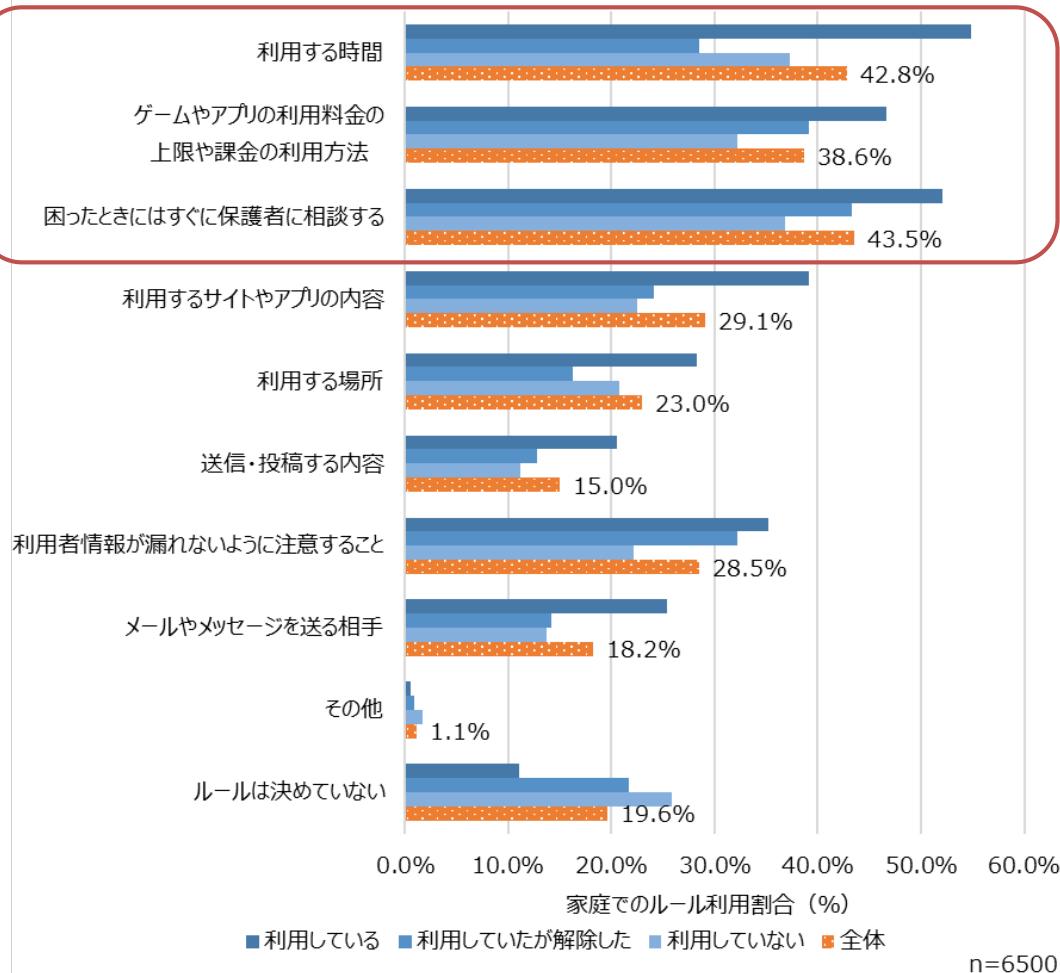


図表15 各ペアレンタルコントロール機能の利用状況（フィルタリングサービス利用状況別）

* 本調査研究におけるペアレンタルコントロール機能とは、保護者が子供の使う端末の機能を制限できる機能である。具体的には、図表15の4つの機能「アプリ内の設定」「SNSの利用監視サービス（Filli等）」「時間管理アプリや機能」「その他のペアレンタルコントロール機能」を指し、この4つを指すことはアンケート調査回答者に明示している。

フィルタリングサービス利用状況別の家庭でのルールの実施状況

◆ 家庭でのルール実施状況



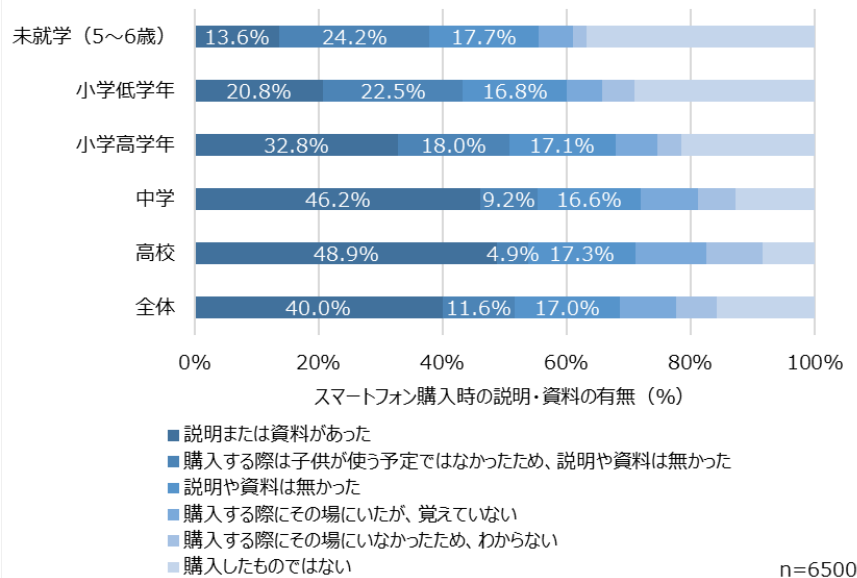
図表16 家庭でのルール実施状況（フィルタリングサービス利用状況別）

- 80%以上の人が、家庭でのスマートフォン利用に関するルールを何らか定めている。特に、「困ったときにはすぐに保護者に相談する」（43.5%）や、「利用する時間」（42.8%）、「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法」（38.6%）に関して家庭でのルールが決められている場合が多い（図表16）。
- 「その他」以外の全てのルールについて、フィルタリングサービス利用者の方が、利用していない人よりも家庭でのルールを決めている割合が高い。
- ペアレンタルコントロール機能に関する傾向（フィルタリングサービスを利用している人の方がペアレンタルコントロール機能を利用している割合が高い）と同様に、フィルタリングサービスを利用している人の方が青少年保護に関する意識が高く、家庭でのルール等のペアレンタルコントロールも実施している可能性を示唆している。

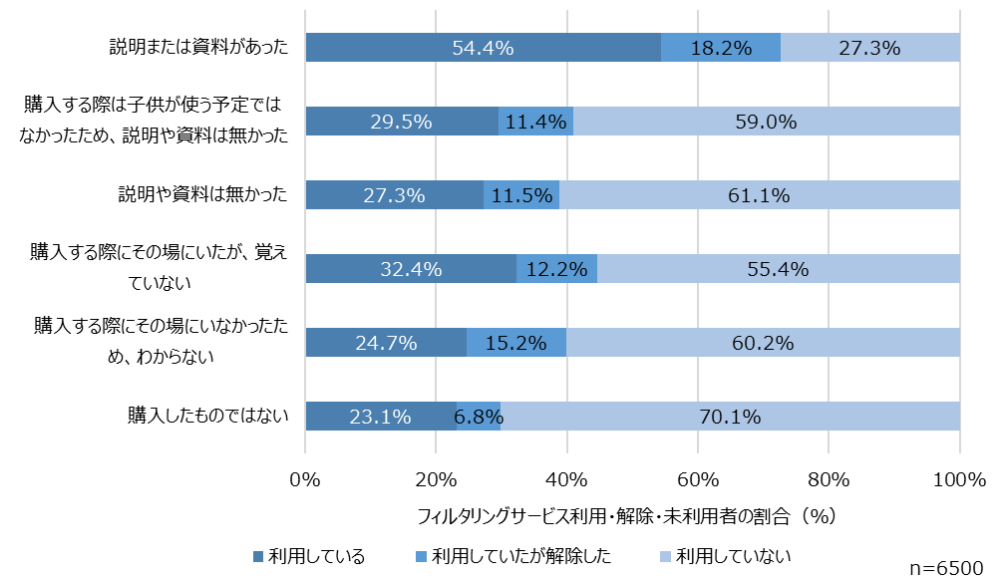
スマートフォン購入時の説明・資料の有無とフィルタリングサービス利用

◆ スマートフォン購入時の青少年の利用に関する保護者の管理についての説明有無とフィルタリングサービス利用状況

- 全体の40.0%の人が、スマートフォン購入時に青少年の利用に関する保護者の管理に関する説明を受けたり資料を配られたりしている。ただし、未就学（5～6歳）ではわずか13.6%にとどまり、その中でも「購入する際は子供が使う予定ではなかったため、説明や資料は無かった」（24.2%）と突出している（図表17）。
- 保護者の管理について「説明または資料があった」人（全体40.0%）については、フィルタリングサービスを利用している人が多い（54.4%）。すでに解除したものの、一度は利用していた人も含めると7割を超えるため、購入時の説明や資料がフィルタリングサービスの導入に大きく寄与していることが伺われる（図表18）。



図表17 スマートフォン購入時に保護者の管理について説明はあったか（年齢別）



図表18 スマートフォン購入時における保護者の管理についての説明とフィルタリングサービス利用状況

「インターネットの問題の知識・危険性認知」「フィルタリングサービスの知識・有効性認知」と実際のフィルタリングサービスの利用状況

◆ インターネットの問題・危険性認知及びフィルタリングサービスに関する知識・有効性認知と実際のフィルタリングサービスの利用状況に関する調査方法

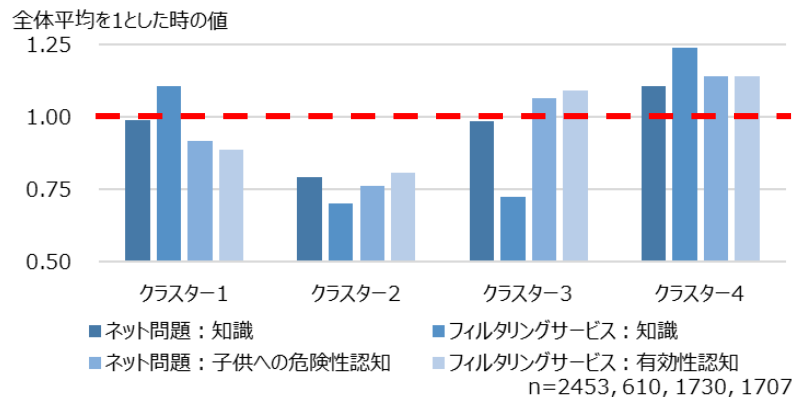
- 「インターネットの問題に関する知識」「フィルタリングサービスに関する知識」「インターネットの問題の子供への危険性認知」「フィルタリングサービスの有効性認知」の4つの指標を調査（点数が高いほど知識が多く、危険性・有効性認知が高い）。

	知識	危険性・有効性認知
インターネットの問題	インターネットの問題に関する知識 (1～6点)	インターネットの問題の子供への危険性認知 (1～5点)
フィルタリングサービス	フィルタリングサービスに関する知識 (0～5点)	フィルタリングサービスの有効性認知 (1～5点)

- 「フィルタリングサービスに関する知識」を除く3指標は、自己申告で調査した。例えばインターネットの問題に関する知識であれば、「インターネット上のコミュニケーションに関する問題」等10項目について、「1点：全く知らない」～「6点：非常によく知っている」で調査し、その平均点とした。
- 「フィルタリングサービスに関する知識」は、10項目中5項目が正解となるような、フィルタリングサービスにの効果や設定に関するクイズを出し、その正解数を指標とした。

◆ 知識や危険性・有効性認知による保護者の4クラスター

- 階層的クラスター分析（ワード法）*によって、知識や危険性・有効性認知で保護者を4クラスターに分類。各クラスターの特徴は以下（図表19、図表20）。



図表19 保護者の4分類各クラスターの特徴

※ 各指標について、全体平均を1とした時の値。

図表20 保護者の4分類各クラスターの特徴まとめ

	知識		危険性・有効性認知	
	インターネットの問題	フィルタリングサービス	インターネット問題	フィルタリングサービス
クラスター1	○	◎	×	×
クラスター2	×	×	×	×
クラスター3	○	×	◎	◎
クラスター4	◎	◎	◎	◎

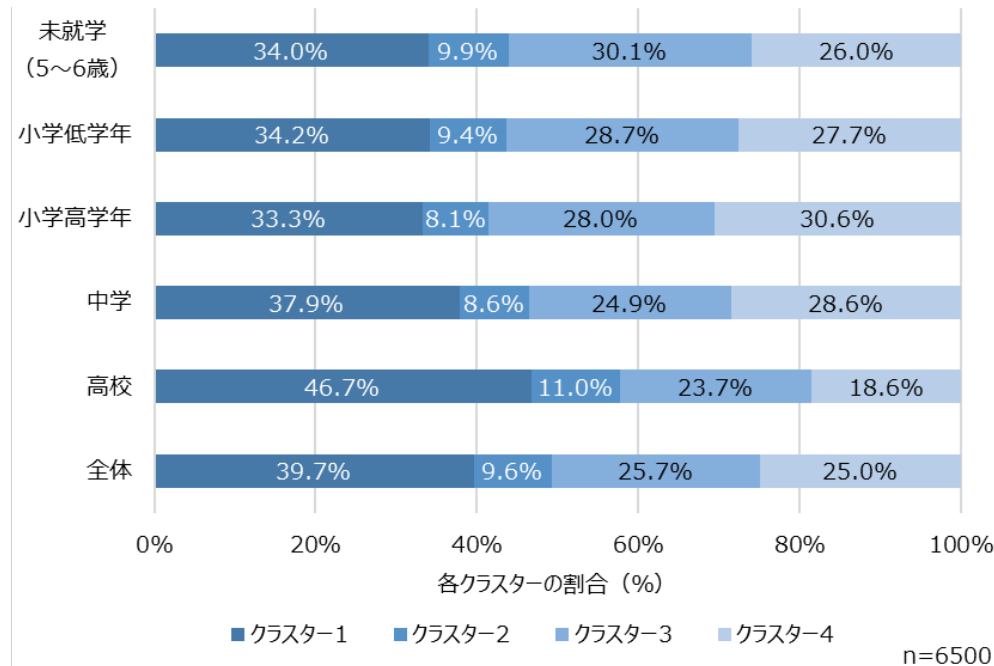
※ ◎は平均より高く、○は平均並み、×は平均より低いことを示す。

*保護者の知識や危険性・有効性認知による分類方法としてはいくつか考えられるが、4つの指標は全て小数点を含む尺度変数となっており、閾値を決めて分割するのは妥当性に欠ける。そこで、クラスター分析によって統計的に妥当なところで分類する。クラスター分析とは、全体像を把握するのが難しい場合に、得られたデータに基づいてサンプルを分類し、データの構造を見やすくするための手法である。その中で階層的クラスター分析（ワード法）は、クラスター数に関する分析者の恣意性が入らず、かつ、解釈しやすい結果が得られるとされる。

知識や危険性・有効性認知とフィルタリングサービス利用

◆ 保護者の4クラスターの割合

- クラスター1（フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）が39.7%で最も多く、クラスター2（ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）が9.6%で最も少ない。
- 未就学（5～6歳）から中学生の保護者までは大きな違いはないものの、高校生ではクラスター1（フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）（46.7%）とクラスター2（ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）（11.0%）が相対的に多く、クラスター4（ネット問題・フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり）は18.6%と少ない傾向。

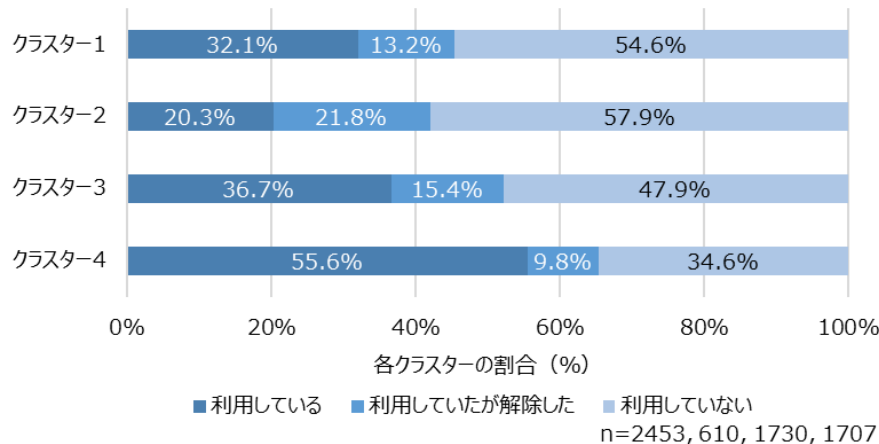


図表21 保護者の4分類各クラスターの割合（年齢別）

知識や危険性・有効性認知とフィルタリングサービス利用

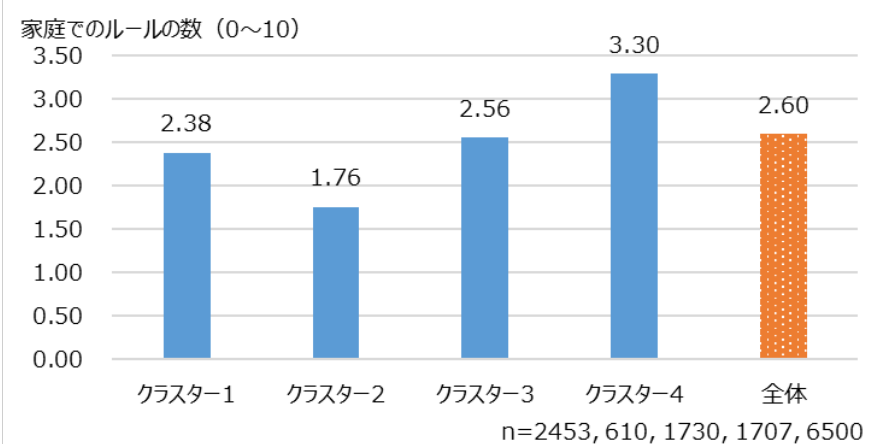
◆ 保護者の4クラスターとフィルタリングサービス利用状況や家庭でのルール実施状況

- クラスター4（ネット問題・フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり）が突出してフィルタリングサービス利用者が多く（55.6%）、クラスター2（ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）では極端に少ない（20.3%）。知識や危険性・有効性認知は、フィルタリングサービス利用行動に大きく影響しているといえる（図表22）。
- クラスター3（フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり）の方がクラスター1（フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）よりフィルタリングサービス利用者が多い。知識が多いことよりも、子供への危険性を認知していたりフィルタリングサービスの有効性を認知していたりするクラスターの方が、フィルタリングサービスを利用している（図表22）。
- 家庭でのルールの数についても、クラスター4（ネット問題・フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり）は多く（3.30個）、クラスター2（ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）は少ない（1.76個）（図表23）。
- クラスター4（ネット問題・フィルタリング知識あり／ネット危険性・フィルタリング有効性認知あり）は総合的に様々な対策をとっている一方で、クラスター2（ネット問題・フィルタリング知識なし／ネット危険性・フィルタリング有効性認知なし）は何もしていない傾向が強く、フィルタリングサービスの利用と類似した傾向である。



図表22 フィルタリングサービスの利用状況（クラスター別）

※ nは各クラスターの人数。



図表23 家庭でのルールの数（クラスター別）

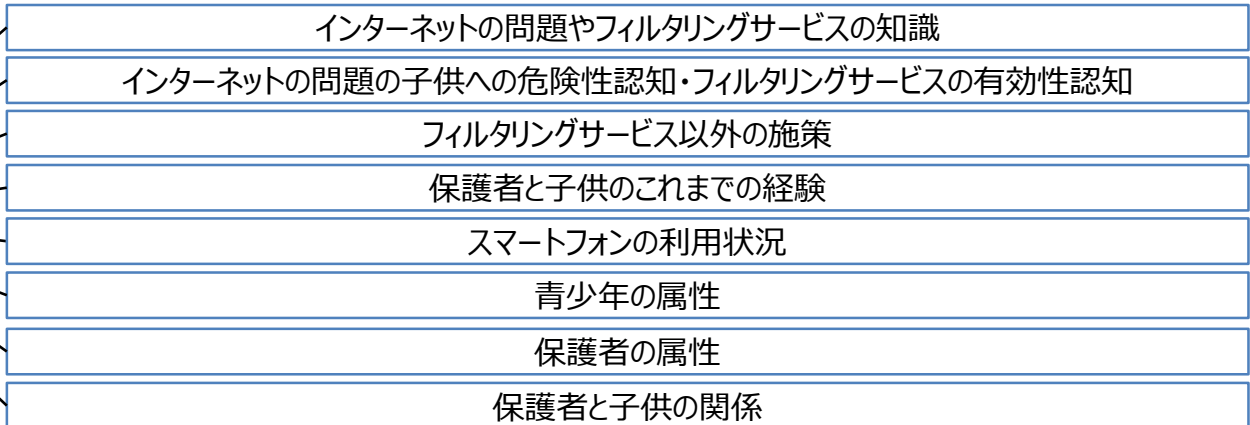
nは各クラスターの人数。

フィルタリングサービス利用行動決定要因の分析

◆ フィルタリングサービス利用行動モデル

- フィルタリングサービス利用行動が何によって決定づけられているか検証するモデルを構築する。
- モデルは、以下8つの要素がフィルタリングサービス利用行動に影響を与えているとしている。本モデルを回帰分析することで、それぞれの要素がどのようにフィルタリングサービス利用行動に影響を与えているか見る。

フィルタリングサービス利用行動



$$\ln\left(\frac{P_{bi}}{P_{ai}}\right) = \alpha_b + \beta_{b1}Knowledge_i + \beta_{b2}Literacy_i + \beta_{b3}Other_i + \beta_{b4}Experience_i + \beta_{b5}Mobile_i + \beta_{b6}C_characteristics_i + \beta_{b7}A_characteristics_i + \beta_{b8}Relationship_i$$

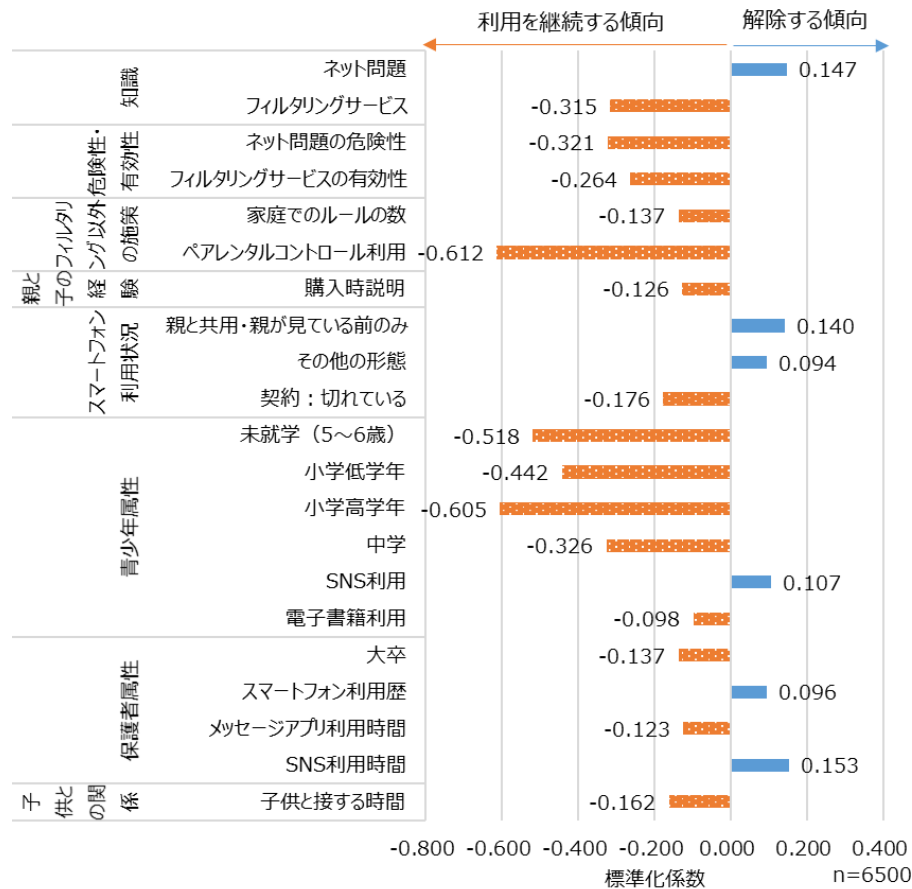
$$\ln\left(\frac{P_{ci}}{P_{ai}}\right) = \alpha_c + \beta_{c1}Knowledge_i + \beta_{c2}Literacy_i + \beta_{c3}Other_i + \beta_{c4}Experience_i + \beta_{c5}Mobile_i + \beta_{c6}C_characteristics_i + \beta_{c7}A_characteristics_i + \beta_{c8}Relationship_i$$

- 分析は多項ロジスティックモデルで行う。基準は「フィルタリングサービスを利用している」という行動である。
- 分析結果については、5%水準で有意なものについて標準化係数をまとめる。標準化係数の絶対値が大きいものほど影響力が大きい。
- ダミー変数については、スマートフォン利用形態では基準を青少年が専用に利用している場合、契約では基準をNTTドコモ・KDDI・SoftBankを除く通信事業者、OSでは基準をAndroidとする。青少年属性において、年齢は高校生を基準とする。

- P_{ai} : フィルタリングサービスを利用している予想確率
- P_{bi} : フィルタリングサービスを利用していたが解除した予想確率
- P_{ci} : フィルタリングサービスを利用していない予想確率
- $Knowledge_i$: 「インターネットの問題に関する知識」と「フィルタリングサービスに関する知識」のベクトル。
- $Literacy_i$: 「インターネットの問題の子供への危険性認知」と「インターネットの問題へのフィルタリングサービス有効性認知」のベクトル。
- $Other_i$: フィルタリングサービス以外の施策をしているかどうかのベクトル。
- $Experience_i$: 保護者と子供のこれまでの経験を表すベクトル。
- $Mobile_i$: スマートフォンの利用状況を表すベクトル。
- $C_characteristics_i$: 青少年の属性ベクトル。
- $A_characteristics_i$: 保護者の属性ベクトル。
- $Relationship_i$: 保護者と子供の関係を表すベクトル。
- $\alpha_b, \beta_{b1}, \beta_{b2}, \beta_{b3}, \beta_{b4}, \beta_{b5}, \beta_{b6}, \beta_{b7}, \beta_{b8}, \alpha_c, \beta_{c1}, \beta_{c2}, \beta_{c3}, \beta_{c4}, \beta_{c5}, \beta_{c6}, \beta_{c7}, \beta_{c8}$: 各変数、ベクトルのパラメータ

フィルタリングサービスの利用行動決定要因の分析（利用継続・解除）

◆ 分析結果（解除する行動）



図表24 分析結果：フィルタリングサービスを利用していたが解除する行動に与える影響（標準化係数*）

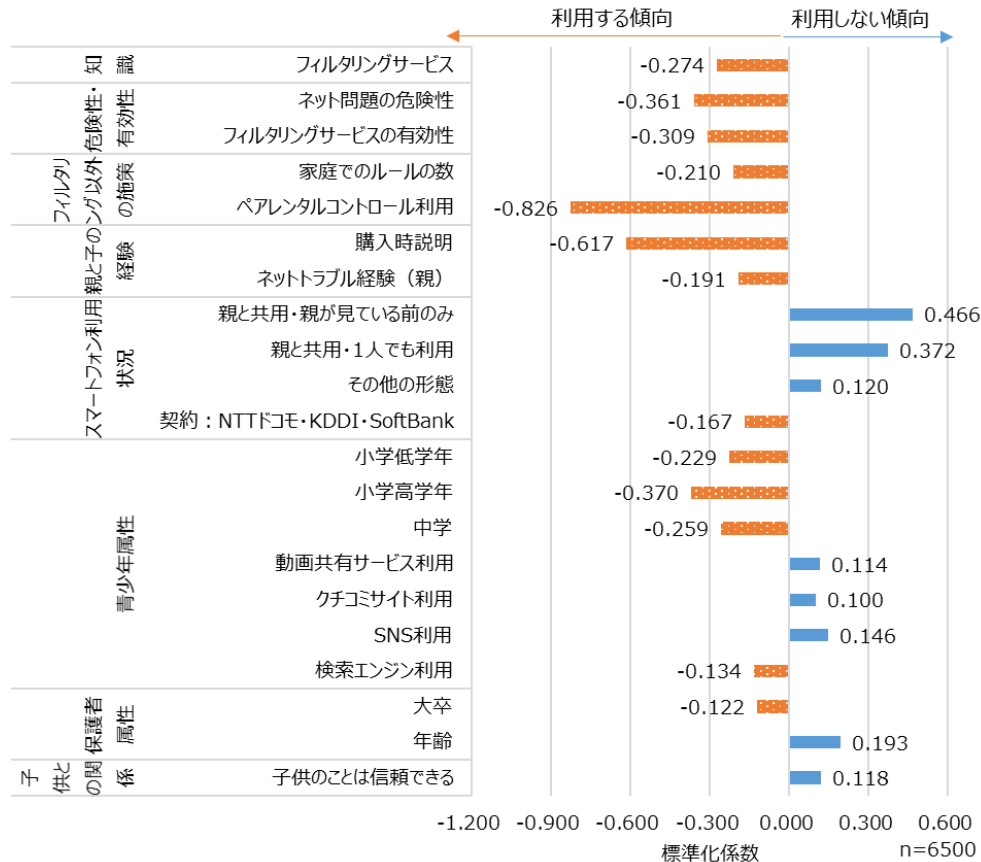
* 標準化係数とは、全ての変数の平均値を0、標準偏差を1としたうえで推定した結果の係数。説明変数同士の説明力を横比較することが出来る。

- 知識・危険性・有効性：インターネットの問題が子供にもたらす危険性認知や、フィルタリングサービスの知識・有効性認知が高いとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向。この効果は他と比べても大きい。一方、インターネットの問題の知識が高いと、むしろフィルタリングサービスを解除する傾向がみられる。
- フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロール：家庭でのルールが多く、フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロール機能を利用している人の方がフィルタリングサービスの利用を継続する。青少年を保護しようとする家庭とそうでない家庭で二極化していると考えられる。
- 親と子の経験：スマートフォン購入時に保護者の管理に関する説明を受けるとフィルタリングサービスの利用を継続する傾向。利用することだけでなく、利用の継続にも寄与。
- スマートフォンの利用状況：子供の専用利用に比べて、「親と共用・親が見ている前のみ」、「その他」の利用形態だとフィルタリングサービスを解除しやすい傾向。
- 青少年属性：高校生と比較して、高校生以外の年齢の方が利用を継続する傾向。特に未就学（5～6歳）～小学高学年においてその傾向が強い。また、青少年がSNSを利用していると解除しやすく、電子書籍を利用していると解除しにくい。
- 保護者属性：大卒、メッセージアプリ利用時間が長い人は利用を継続する傾向。スマートフォン利用歴やSNS利用時間が長いと解除する傾向。自分が慣れているから青少年も安全と考えて解除すると思われる。
- 子供との関係：子供と接する時間が長い人ほど利用を継続する傾向。保護意識が高いためと考えられる。

- ※ 図において、オレンジ色（標準化係数がマイナス）の場合は「フィルタリングサービスの利用を解除しない（＝継続する）」行動に影響のある要素である。
- ※ 青色（標準化係数がプラス）の場合は「フィルタリングサービスを解除する」行動に影響のある要素である。
- ※ 標準化係数の絶対値が大きいほど影響力が高い。

フィルタリングサービスの利用行動決定要因の分析（利用する・利用しない）

◆ 分析結果（利用しない行動）



図表25 分析結果：フィルタリングサービスを利用していない行動に与える影響（標準化係数*）

* 標準化係数とは、全ての変数の平均値を0、標準偏差を1としたうえで推定した結果の係数。説明変数同士の説明力を横比較することが出来る。

- 知識・危険性・有効性：フィルタリングサービスを解除する場合と同様、インターネットの問題が子供にもたらす危険性認知や、フィルタリングサービスの知識・有効性認知が高いとフィルタリングサービスを利用する傾向。この効果は他の要因と比べても比較的大きい。一方、インターネットの問題の知識について有意な結果は見られない。
- フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロール：家庭でのルールが多く、フィルタリングサービス以外のペアレンタルコントロール機能を利用している人の方がフィルタリングサービスを利用。
- 親と子の経験：スマートフォン購入時に保護者の管理に関する説明を受けていると利用しやすく、その効果は大きい。保護者のネットトラブル経験がある場合も利用する。
- スマートフォン利用状況：子供の専用利用に比べて、「親と共用」、「その他」の利用形態だとフィルタリングサービスを利用しない傾向。
- 青少年属性：小学低学年～中学生だと高校生よりもフィルタリングサービスを利用する傾向にあるが、未就学（5～6歳）の場合は高校生と同水準。また、青少年が動画共有サービス、クチコミサイト、SNSを利用しているとフィルタリングサービスを利用しない傾向で、検索エンジンを利用しているとフィルタリングサービスを利用しやすい。
- 保護者属性：大卒だと利用する傾向だが、年齢が高いと利用しない傾向。
- 子供との関係：「子供のことは信頼できる」と考えている人は利用しない傾向。

※ 図において、オレンジ色（標準化係数がマイナス）の場合は「フィルタリングサービスの利用を解除しない（＝継続する）」行動に影響のある要素である。

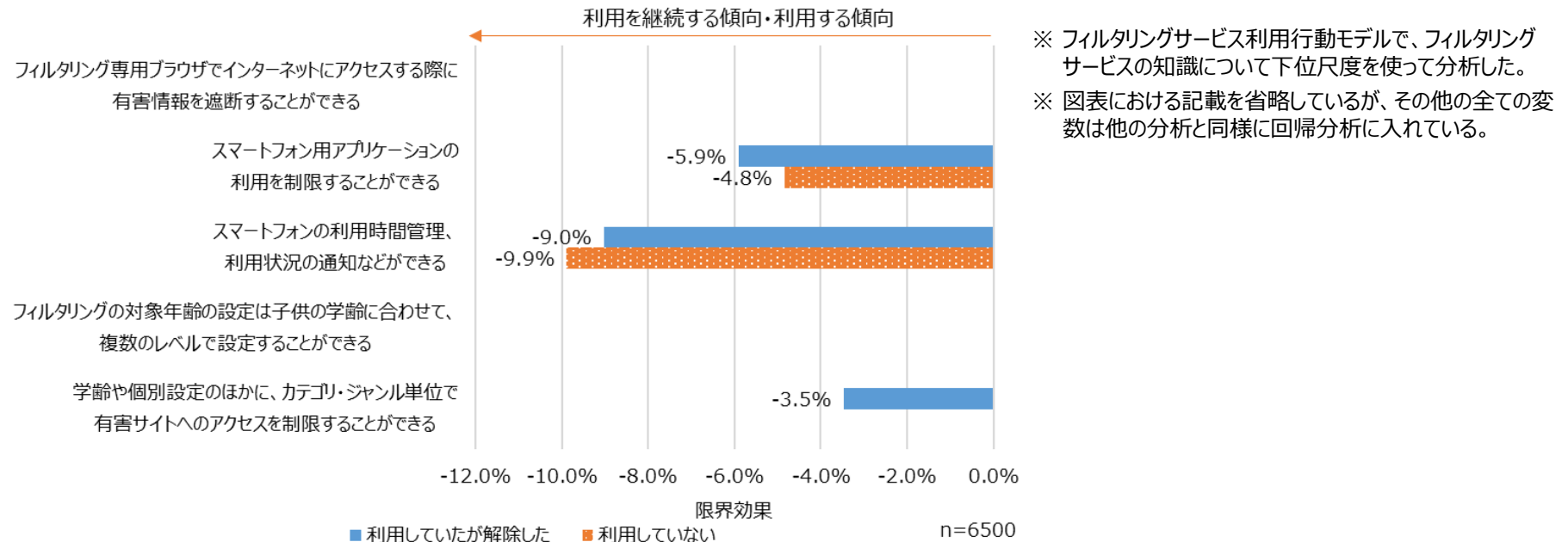
※ 青色（標準化係数がプラス）の場合は「フィルタリングサービスを解除する」行動に影響のある要素である。

※ 標準化係数の絶対値が大きいほど影響力が高い。

フィルタリングサービスの利用行動決定要因の分析 (フィルタリングサービスの知識の詳細)

◆ フィルタリングサービスに関する各知識とフィルタリングサービス利用行動の関係

- フィルタリングサービスの知識の中でも特に、「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」ということを知っていると、フィルタリングサービスの利用をしたり、解除しなくなったりする傾向。
- 「学齢や個別設定のほかに、カテゴリ・ジャンル単位で有害サイトへのアクセスを制限することができる」ことを知っていると、解除しなくなる傾向。
- カスタマイズ設定や利用時間管理機能の認知は利用継続に寄与すると考えられる。



図表26 分析結果：フィルタリングサービスに関する知識とフィルタリングサービス利用行動の関係（限界効果*）

* 限界効果とは、説明変数が1単位増加した時に確率がどの程度変化するのかを表している。

アンケート調査分析まとめ

◆ アンケート調査分析の結果要点

- スマートフォンを利用している青少年において、フィルタリングサービスの利用率は38.1%にとどまる（p8・図表3）。「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正後も、フィルタリングサービスの利用は改善しているものの、定着していない。
- フィルタリングサービスを利用していない人は、家庭内ルール作りやペアレンタルコントロール機能利用もしていない（p13・図表14、p14・図表16）。
- 「ネットの問題に関する知識」を除き、「フィルタリングサービスの知識」、「ネットの問題が子供にもたらす危険性認知」、「フィルタリングサービスの有効性認知」は、これらが高いほどフィルタリングサービスを利用しているし、解除していない傾向（p20・図表24、p21・図表25）。
- フィルタリングサービスを解除する理由として、「子供にとって不便と感じたため」（31.3%）、「使えないサービスやアプリを子供に使わせるため」（29.2%）が多かった（p11・図表12）。また、カスタマイズ設定を知っていると解除しない傾向が見られた（p22・図表26）。
- 利用率の最も高い「あんしんフィルター」では、カスタマイズ率が33.3%と低かった（p9・図表8）。
- フィルタリングサービスについて、「スマートフォン用アプリケーションの利用を制限することができる」「スマートフォンの利用時間管理、利用状況の通知などができる」ということを知っていると、利用する傾向にあり、解除しない傾向もあった（p22・図表26）。
- スマートフォン購入時における保護者の管理に関する説明や資料は、フィルタリングサービス利用に大きく寄与（p15・図表18、p21・図表25）。
- 高校生でフィルタリングサービスを利用しない理由としては、「特に必要を感じないため」や、「フィルタリングを利用しなくても、子供の適切なインターネット利用を管理できるため」が多かった（p12・図表13）。
- 他方、低年齢層の子供を持つ保護者は説明をほとんど受けていない。購入時に子供が使う予定がなかったという理由が多い（p15・図表17）。
- 親と子供の共用だとフィルタリングサービスを利用しない傾向にある（p21・図表25）うえ、解除する傾向もある（p20・図表24）。

實驗的調查

実験的調査方法

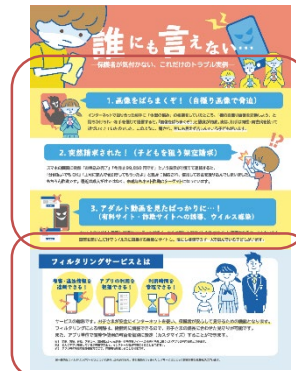
◆ 実験的調査の概要

- 調査時期：2021年2月25日～2月28日
- 調査対象：アンケート調査対象者の中で、「フィルタリングサービスを利用していたが解除した」「フィルタリングサービスを利用していない」と回答した人1,002名。
- 調査目的：インターネットの問題が子供にもたらす危険性や、フィルタリングサービスの効果・設定方法に関する情報を提供した際に、フィルタリングサービス利用意向がどのように変化するか明らかにする。また、その利用意向の変化が、提供する情報の種類によってどのように異なるか検証する。
- 調査方法：対象者を3グループに分け、制作した資料を見せる。それぞれのグループの特徴は図表27のとおり。

図表27 それぞれのグループで提供された情報

	インターネットの問題が子どもにもたらす危険性	フィルタリングサービスの効果	フィルタリングサービスの設定方法
グループ1（資料A）	◎	○	×
グループ2（資料B）	×	◎	○
グループ3（資料A+資料B）	◎	◎	○

- ※ ◎は主たる情報として提供したもの。○は副情報として提供したもの。
- ※ 各グループ334名。
- ※ 「フィルタリングサービスを利用していたが解除した」「フィルタリングサービスを利用していない」の比率（746：3269）による割り付けを全グループで実施。つまり、全グループで前者が62名、後者が272名となった。
- ※ 回答者が提供された情報をよく読んでいるか確認するため、提供後にクイズを出し、5項目中3項目の正解を全て選択できない場合には調査対象外とした。
- ※ 資料の詳細な内容については付録を参照。



提供した資料A

1. 主たる部分で、インターネットの問題が子どもにもたらす危険性について書かれている。
2. 副情報部分で、フィルタリングサービスの効果について書かれている。

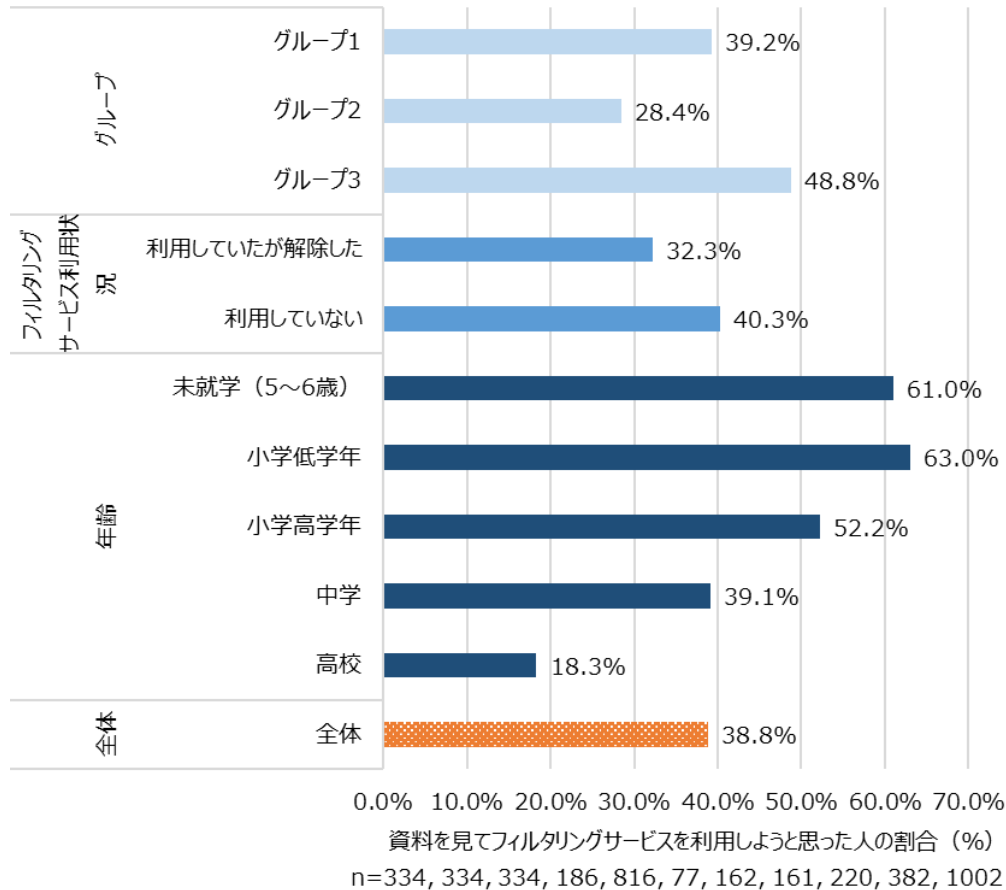


提供した資料B

3. 主たる部分で、フィルタリングサービスの効果について書かれている。
4. 副情報部分で、フィルタリングサービスの設定方法について書かれている。

実験的調査結果：フィルタリングサービス利用意向

◆ 情報の提供とフィルタリングサービス利用意向の関係



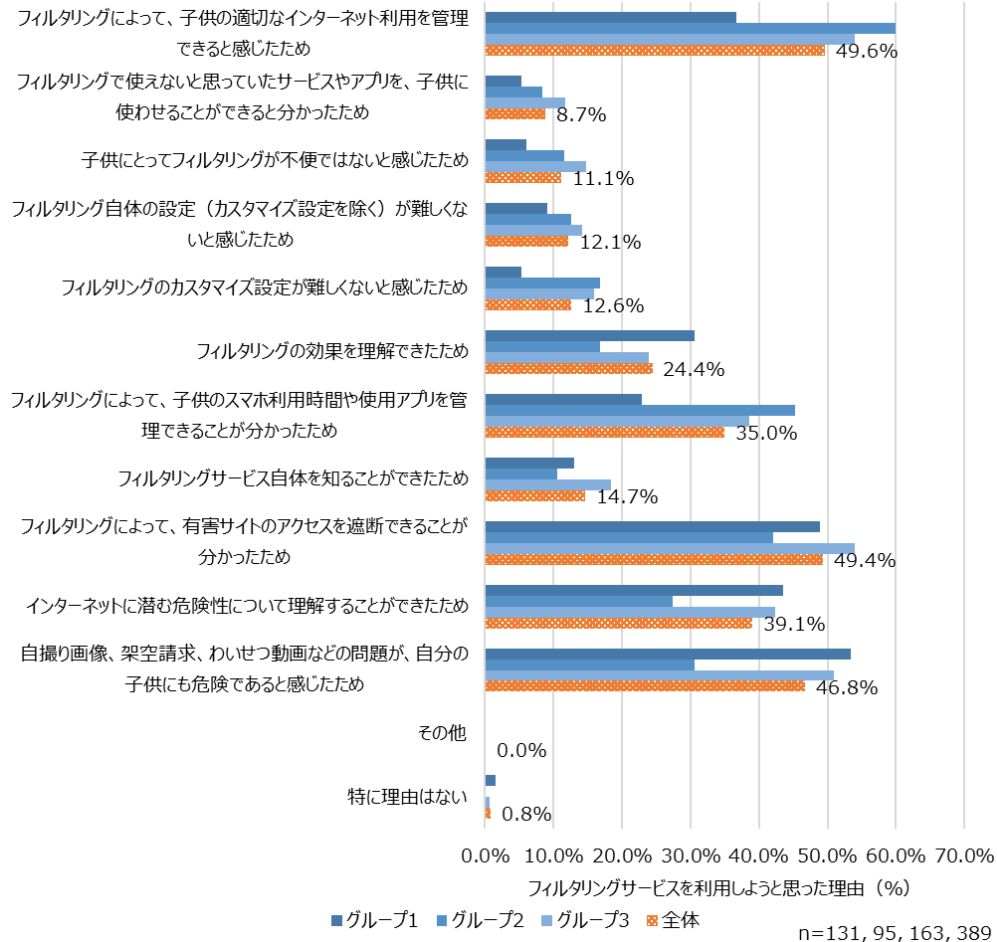
- 全体：対象者の38.8%が資料を見てフィルタリングサービスを利用しようと考えた。
- グループ：インターネットの問題が子供にもたらす危険性を中心に啓発することは、フィルタリングサービスの効果と設定方法について啓発する（28.4%）よりも、フィルタリングサービスの利用意向が高まった（39.2%）。さらにインターネットの問題が子供にもたらす危険性に加えて、フィルタリングサービスの効果や設定方法の情報と同時に提供すると、フィルタリングサービスの利用意向がさらに高まった（48.8%）。
- 利用状況：フィルタリングサービスを利用していたが解除した人（32.3%）より、利用していない人に高い効果（40.3%）。
- 年齢：子供が、未就学（5～6歳）から小学校高学年だと利用意向に関する効果が高い一方で、特に高校生では効果が小さい（18.3%）。高校生になると、資料で提供されたようなインターネットの問題がもたらす子供への危険性等が、自分の子供には関係ない考えるためであると考えられる。

図表28 資料を見てフィルタリングサービスを利用しようと思った人の割合（グループ別・フィルタリングサービス利用状況別・年齢別）

※ nは各グループの人数、フィルタリングサービス利用状況別の人数、年齢別の人数、全体の人数

実験的調査結果：フィルタリングサービスを利用しようと思った理由

◆ 資料を見てフィルタリングサービスを利用しようと思った理由



図表29 資料を見てフィルタリングサービスを利用しようと思った理由（グループ別）

※ nは各グループの中で、フィルタリングサービスを利用しようと思った人の人数。

- 全体：「フィルタリングによって、子供の適切なインターネット利用を管理できると感じたため」（49.6%）、「フィルタリングによって、有害サイトのアクセスを遮断できることが分かったため」（49.4%）、「自撮り画像、架空請求、わいせつ動画などの問題が、自分の子供にも危険であると感じたため」（46.8%）が非常に多い。資料ではフィルタリングサービスの効果とインターネットの問題がもたらす子供への危険性について強調しており、それが利用しようと思う行動に繋がっていると考えられる。
- グループ別：インターネットの問題がもたらす子供への危険性を中心に提示したグループ1では「インターネットに潜む危険性について理解することができたため」や「自撮り画像、架空請求、わいせつ動画などの問題が、自分の子供にも危険であると感じたため」が多く、フィルタリングサービスの効果を中心に提示したグループ2では「フィルタリングによって、子供の適切なインターネット利用を管理できると感じたため」「フィルタリングによって、子供のスマホ利用時間や使用アプリを管理できることが分かったため」が多い。
- 見せる資料によって保護者の認識に大きく影響を与え、フィルタリングサービス利用行動や動機も変化すると考えられる。また、両資料を見せたグループ3では総じて高めの傾向となった。

保護者インタビュー調査

保護者インタビュー調査方法

◆ 保護者インタビュー調査の概要

- 調査時期：2021年1月18日～2月18日
- 調査対象：調査会社（5000名対象）及び機縁法*を通じて抽出された保護者21名。
- 調査方法：フィルタリング状況（未導入・解除・導入中いずれか）および専用・共用いずれかの条件別共通ヒアリング項目に基づいたオンライン（zoom）インタビュー。1回あたり1時間半程度。
- 調査目的：保護者一人一人がなぜフィルタリングを利用していないのか、利用をやめてしまったか等の点について、保護者の生の意見を深く調査する。

図表30 保護者インタビュー調査のターゲットマトリクスとID（※は共用）

子の性別	男児			女児		
フィルタリング	未導入	解除	導入中	未導入	解除	導入中
未就学児	—	—	G※	—	c※	—
小学校低学年	—	C※	—	—	—	g
小学校高学年	—	D	H	—	d	h
中学生	A	E	I	a	e	i,k
高校生	B	F	J	b	f	j

対象は、内閣府『青少年のインターネット利用環境実態調査』による区分け、および現在普及している通信会社から展開されているサービスの種類を踏まえ、(1) 子の性別、(2) 子の年代、(3) フィルタリング導入の状況、(4) 専用または共用状況、以上4つの属性で設定。(4) については「専用」している機器を基本の対象に実施するが、既存の調査から、「未就学児」および「小学生低学年」については、「共用利用」の場合を含むとした（※がついている児童）。

図表31 条件別共通ヒアリング項目（フィルタリング解除×専用の場合）

利用概況	ペアレンタルコントロール状況	フィルタリング状況	インターネット接続への意識と課題、ニーズ
1機器の種類・通信会社	1設定状況	1知識	1全般的な意識
2購入時期・場所	2参考情報	2種類・内容・時期	2有害情報等への意識
3主な用途	3理由・背景	3やめた時期	3エピソード
4利用量	4プロセス	4やめた理由（管理者：自分および配偶者の視点）	4対策
	5管理方法	5やめた理由（利用者：子の視点）	5ニーズ
	6課題	6解除後の管理方法	
	7ニーズ	7課題とニーズ（管理者：自分および配偶者の視点）	
		8課題とニーズ（利用者：子の視点）	
		9管理者（親）と利用者（子）のすり合わせ	

* 調査対象者をコミュニティや知人・友人等の繋がりを通じて、条件にマッチする人を探す方法。本調査では機縁法で3名がその対象となった。

保護者インタビューを通じて明らかになった15のストーリー

◆ 明らかになった15のストーリー

青少年とスマートフォン

【ストーリー1】スマートフォンを専用し始める一つの節目が「中学生」から。その理由は「LINE」利用のため。

【ストーリー2】未就学児～小学生のスマートフォン利用は専用であっても「YouTubeだけ」、「親との連絡だけ」など、「機能限定的」な利用。

【ストーリー3】インターネット接続そのものは、スマートフォン以外に「タブレット」「ゲーム機器」「PC」を大人同様に利用。

保護者とペアレンタルコントロール

【ストーリー4】ペアレンタルコントロール（非技術的・技術的双方）は「思春期（子供の自立）」の親子関係が反映することがあり管理が難しい。

【ストーリー5】女兒よりも男児のほうが、長子よりも末子のほうが、ペアレンタルコントロール（非技術的・技術的双方）が難しい。

フィルタリング

【ストーリー6】フィルタリング導入の意図として「有害情報のカット（コンテンツ規制）」にニーズがあり。そのほか「時間管理」「課金制限・アプリの管理」についてもニーズがある。

【ストーリー7】未導入の理由は「必要ない（意識がない）」と「ある程度情報を見させて子供自身で判断させることも大事」。

【ストーリー8】フィルタリングサービスの解除理由として「使えないアプリ・見えないサイトが多すぎる」。目立つのは通信事業者の提供するフィルタリングの解除。

【ストーリー9】フィルタリングサービスの解除をした家庭において「カスタマイズができることを知らなかった」。

【ストーリー10】フィルタリングを継続できているパターンは「iOS」または「Android」が提供するOSのフィルタリングサービス。

【ストーリー11】フィルタリングを導入していてもアプリ内でのやり取りに不安が残る。

より良い青少年のスマートフォン利用と保護者のニーズ

【ストーリー12】親向けには年齢性別毎の「対処策」「トラブル事例」などの情報、子供向けには学習を切り離さない「自分ごと化できるコンテンツ」を求めている。

【ストーリー13】「保護者の学習・成長」を保護者自身が必要と感じている。

【ストーリー14】フィルタリング（防ぐ・守る）をするだけでなく「子供自身の情報環境に対して、自身で危険性を判断できるようになること」を求めている。

【ストーリー15】コンテンツフィルタリングに関しては「仕組みの透明性」や「精度向上」を求めている。

保護者インタビュー調査で分かった解除のプロセス

◆ フィルタリングサービスの解除はどのような形で起きているか

- 導入したものの解除した家庭が今回のインタビューのうち全8件（ID：C*、D、E、F、c*、d、e、f）であり、そのうち6件（ID：C*、D、F、c*、d、f）が通信事業者が提供するフィルタリングからの解除。

図表32 インタビュー21名のフィルタリング状況一覧

ID	属性	フィルタリングサービスの変遷と現在の状況	コンテンツ規制状況
A	男児・フィルタリング未導入・中学生	◆最初からなし	×
B	男児・フィルタリング未導入・高校生	◆最初からなし	×
C*	男児・フィルタリング解除・小学校低学年（共用）	◆YouTube上での年齢設定→◆解除	×
D	男児・フィルタリング解除・小学校高学年	◆あんしんフィルター→◆スクリーンタイム（iOS）設定（課金制限、アプリDL許可制）を現在も利用中	×
E	男児・フィルタリング解除・中学生	◆スクリーンタイム（iOS）設定（時間制限、コンテンツ制限、アプリDL許可制）→◆子供に勝手に解除された	×
F	男児・フィルタリング解除・高校生	◆あんしんフィルター→◆解除	×
G*	男児・フィルタリング導入中・未就学児（共用）	◆あんしんフィルター（cメールと電話ができるのみ）を現在も利用中	○
H	男児・フィルタリング導入中・小学校高学年	◆ファミリーリンク（Android OS）設定（時間制限、コンテンツ制限、アプリDL許可制）を現在も利用中	○
I	男児・フィルタリング導入中・中学生	◆あんしんフィルター（中学生モード）→◆あんしんフィルター（高校生+モード）を現在も利用中	○
J	男児・フィルタリング導入中・高校生	◆ファミリー共有（iOS）設定（アプリDL許可制、課金許可制）を現在も利用中	×
a	女児・フィルタリング未導入・中学生	◆最初からなし	×
b	女児・フィルタリング未導入・高校生	◆最初からなし	×
c*	女児・フィルタリング解除・未就学児（共用）	◆あんしんフィルター→◆YouTube上での年齢設定およびスマホのロックを現在も利用中	△
d	女児・フィルタリング解除・小学校高学年	◆あんしんフィルター→◆ファミリーリンク（Android OS）設定（履歴確認・DL確認等）を現在も利用中	×
e	女児・フィルタリング解除・中学生	◆スマホリ→◆ファミリーリンク（Android OS）設定→解除	×
f	女児・フィルタリング解除・高校生	◆あんしんフィルター→解除	×
g	女児・フィルタリング導入中・小学校低学年	◆ファミリーリンク（Android OS）設定（GPS、時間制限、課金制限、アプリDL許可制、コンテンツ規制）を現在も利用中	○
h	女児・フィルタリング導入中・小学校高学年	◆スクリーンタイム（iOS）設定（時間制限、課金制限、アプリDL許可制、コンテンツ規制）を現在も利用中	○
i	女児・フィルタリング導入中・中学生	◆スクリーンタイム（iOS）設定（時間制限、コンテンツ規制、アプリDL許可制）を現在も利用中	○
j	女児・フィルタリング導入中・高校生	◆スクリーンタイム（iOS）設定（コンテンツ規制）を現在も利用中	○
k	女児・フィルタリング導入中・中学生	（③i-フィルター：長子の際に）→◆家庭用 Wi-Fiルーターにフィルタリング設定を現在も利用中	△

保護者インタビューの「生の声」

【ストーリー1】スマートフォンを専用し始める一つの節目が「中学生」から。その理由は「LINE」利用のため。



サッカーの部活の連絡が全部LINEで。元々あまり持たせたくはなかったんですが、サッカーの練習に行った先で例えば忘れ物したりだとか、調子が悪いから早く迎えに来てほしいっていうときに彼一人だけ持っていないのはあまりにも不都合で。

E (男児・フィルタリング解除・中学生)

中学に上がってテニス部に入ったんですけど、やっぱりスマホを持ってるお子さん多くて。**部活の連絡の試合とかそういうのをスマホでやっているお子さんが多くて、自分だけ気づけないっていうのも恥ずかしい**っていうのを、ずっと子供からお願いされて、買いました。

F (男児・フィルタリング解除・高校生)



クラスLINEっていうのがあって、そこでも結構なやり取りがあるんですよ。その中でいろんな授業の情報ややり取りがあるので、**もうクラスLINE全員入ってるって言ってましたね**。ここで一人抜けてしまったりすると、それこそ連絡する人に対しても手間を掛けたりするような感じになっちゃうのでっていうところがあって。

j (女児・フィルタリング導入中・高校生)



【ストーリー8】フィルタリングサービスの解除理由として「使えないアプリ・見えないサイトが多すぎる」。目立つのは通信事業者の提供するフィルタリングの解除。



YouTubeでも全然普通（人気YouTuber動画）のものでさえ見れなくなっちゃったりするので、ちょっとそれはやっぱりかわいそうだし、（スマホを買った）意にそぐわない。なので外しました。

D (男児・フィルタリング解除・小学校高学年)

購入してもうわりとすぐ外しました。1週間もなかったかな。**結局小学生レベルの強いセキュリティにしているともうなんにもできない。LINEもできない**。小学生モードじゃ全然使えないなと思ってレベルを上げようと思ったけど、よくよく見ていくと高校生モードでもわりと制約が強くてこれじゃ使えないなと思って解除しました。

d (女児・フィルタリング解除・小学校高学年)



宿題とか課題の調べものとかでもやっぱりスマホを使っているんですけど、**やっぱりフィルタリングがかかっていて、特にそんな有害とかそういうほどでもないのに進まないというか使えないから不便**だと言われて。

F (男児・フィルタリング解除・高校生)

【ストーリー12】

親向けには年齢性別毎の「対処策」「トラブル事例」などの情報、子供向けには学習を切り離さない「自分ごと化できるコンテンツ」を求めている。

上の子と下の子では育てるのも悩みも違いがあって。**男の子の場合、女の子の場合、と管理の仕方の事例があったり、こういうやり方があると教えてもらえるとすごく助かる。**

H (男児・フィルタリング導入中・小学校高学年)

子供の年齢と性別と使い方のモデルケースみたいなのがいくつか用意されてて、自分の子供に近いところのケースがあれば、例えばこういうアプリを入れて制限をかけて、何時から何時まで使えるようにしてますよとか。**そういうアプリの制限のかけ方の例とかサンプルとかあったりとかすると、対応しやすいかな**と思います。

g (女児・フィルタリング導入中・小学校低学年)



実際教育も急に先生が来てITリテラシーとか言っても子供たちは自分事になかなかならないですよ。**YouTubeを使っているときにYouTubeのリテラシーをYouTubeが話してくれるとか、自然に見せたほうが目についていいんじゃないかな**と思いますね。

k (女児・フィルタリング導入中・中学生)



付録

実験的調査で使用した資料

誰にも言えない…

—保護者が気付かない、これだけのトラブル実例—

1. 画像をばらまくぞ！（自撮り画像で脅迫）

インターネットで知り合った相手に「体型の悩み」の相談をしていたところ、「裸の自撮り画像を交換しよう」と持ちかけられ…相手を信じて送信すると、「画像をばらまくぞ」と態度が豹変。実は、相手は同性・同世代を装って近づいてきていたのだ。このように、脅され、誰にも言えず苦しんでいる子どもがいます。

2. 突然請求された！（子どもを狙う架空請求）

スマホの画面に突然「お申込み完了」「今月は99,850円です」という表示が！慌てて連絡すると、「分割払いでもOK」「上司に頼んで振り引きしてもらったよ」と親身に対応され、信用してお金を振り込んでしまいました。もちろん詐欺です。最近は成人だけではなく、未成年もネット詐欺のターゲットになっています。

3. アダルト動画を見たばかりに…！（有料サイト・詐欺サイトへの誘導、ウイルス感染）

ネット上のアダルト動画には違法コンテンツが多く、知らぬ間に有料サイトや詐欺サイトに誘導されるケースもあります。画面を開いただけでウイルスに感染する悪質なサイトも。誰にも相談できず一人で悩んでいる子どもがいます。

フィルタリングサービスとは

有害・違法情報を遮断できる！

アプリの利用を把握できる！

利用時間を管理できる！

サービスの総称です。お子さまが安全にインターネットを使い、保護者が安心して見守るための機能となります。フィルタリングによる制限は、段階的に調整できるので、お子さまの成長に合わせた見守りが可能です。また、アプリ単位で閲覧や使用の可否を個別に設定（カスタマイズ）することができます。

※1 犯罪、暴力、詐欺、アダルト、海賊版といった違法・有害情報サイトへのアクセスやアプリの利用を遮断できます。
 ※2 どんなアプリを使っているか確認できます。インストールを許可することも可能です。
 ※3 アプリ毎の利用時間を確認できます。時間制限を設けることも可能です。

※一般的なフィルタリングサービスについて紹介したものであり、各社提供のフィルタリングサービスによって詳細が異なる場合がございます。

資料A

お子さまのスマホ利用が見える！守れる！

1. お子さまの成長に合わせて調整出来る

家庭のルールやお子さまの成長に合わせて、使える機能、使えるアプリを調整できます。フィルタリングサービスによっては、小学生、中学生、高校生、高校生プラスといったデフォルト設定もありますが、「SNSに慣れてきたから、このチャットアプリだけ許可しよう」といったカスタマイズも可能です。

2. 離れた場所からコントロール出来る！

スマホやアプリごとに何時まで使ったか？といった利用時間の確認ができます。確認だけではなく、「いつまでもゲームをやめない」というお子さまには、離れた場所からでも保護者の端末でアプリの強制停止も可能です。また、アプリのインストールを、保護者の許可制にすることもできます。さらに、お子さまがどんな情報を見ていたのか、保護者が後からチェックできる機能もあります。

3. アダルトなどの違法・有害情報を遮断できる！

犯罪、薬物、詐欺、アダルト、海賊版といった違法・有害情報サイトへのアクセスやアプリの利用を遮断できます。お子さまが積極的に危険なサイトにアクセスすること等を防ぐだけではなく、うっかり違法・有害なコンテンツに触れてしまうことも防げます。

フィルタリング設定は簡単 4 ステップ

Step 1

保護者とお子さまの端末でアプリをダウンロードする

Step 2

初期設定をする

Step 3

モードを選んで（小学生・中学生・高校生・高校生プラス）

Step 4

アプリ毎の利用制限や利用時間の制限をカスタマイズするだけ

※一般的なフィルタリングサービスについて紹介したものであり、各社提供のフィルタリングサービスによって詳細が異なる場合がございます。

資料B

[委託先]

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター



GLOCOM

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

調査研究報告書執筆担当

- | | | | |
|---|--------|------------|------------|
| - | 山口 真一 | 国際大学GLOCOM | 准教授・主任研究員 |
| - | 青木 志保子 | 国際大学GLOCOM | 主任研究員 |
| - | 大島 英隆 | 国際大学GLOCOM | リサーチアシスタント |
| - | 井上 絵理 | 国際大学GLOCOM | リサーチアシスタント |

調査研究プロジェクトメンバー

- | | | | |
|---|--------|------------|---------------|
| - | 山口 真一 | 国際大学GLOCOM | 准教授・主任研究員 |
| - | 青木 志保子 | 国際大学GLOCOM | 主任研究員 |
| - | 渡辺 智暁 | 国際大学GLOCOM | 教授・研究部長・主幹研究員 |
| - | 菊地 映輝 | 国際大学GLOCOM | 講師・研究員 |
| - | 大島 英隆 | 国際大学GLOCOM | リサーチアシスタント |
| - | 井上 絵理 | 国際大学GLOCOM | リサーチアシスタント |
| - | 谷原 吏 | 国際大学GLOCOM | リサーチアシスタント |